

沖縄県地産地消シンポジウム2016

～食と農をつなぎ、豊かな暮らしをつくる～

県では地域で生産された農林水産物を地域で消費する「地産地消」運動を全県的に展開し、生産者と消費者の距離を近づけ「農」と「食」と「健康」の原点を見直し、県産農林水産物の生産と消費の拡大に向けた様々な取組みを推進しています。今回のシンポジウムでは「食と農、地域とくらしを守るため」に、改めて、①地域のまとまり、②安全・安心・高品質のこだわり、③多様な活動によるつながり等を意識した関係者の取り組み方について、議論したいと思います。経済的側面だけではなく、心豊かなくらしと協生・協同・協奏の社会創りを目指す地産地消の可能性を認識し、地産地消推進の一助としたいと思います。



入場
無料

2016年1月20日(水) 沖縄県立博物館・美術館 講堂
14:00～16:30 (13:30開場)

那覇市おもろまち3丁目1番1号

ゆいレール:おもろまち駅下車 徒歩10分 バス:おもろまち駅前下車

基調講演

演題 「食から見える生きる豊かさ」

講演者

バルシステム生活協同組合連合会

顧問

山本 伸司

<プロフィール>

2015年6月にバルシステム生活協同組合連合会理事長を退任し、現職。

出身は新潟県佐渡市。

首都圏で組合員140万世帯、年商2千億円を超える商品カタログによる独自の個配システム構築に貢献。

食と農による社会改革に取り組んでいる。



パネルディスカッション

演題 「地産地消推進で沖縄はどう変わるか？」

コーディネーター

フリーアナウンサー、野菜ソムリエ、沖縄野菜プロジェクト協同組合 代表理事

岡田 郁子

パネリスト

JAおきなわ 代表理事 理事長

砂川 博紀

おきなわいちば 編集長

高安 夏子

株式会社アムニティ 代表取締役社長

伊志嶺 勲

NPO法人フードバンク・セカンドハーベスト沖縄 代表理事

奥平 智子

コメンテーター

バルシステム生活協同組合連合会 顧問

山本 伸司

フードドライブを同時開催します!

～「もったいない」を「ありがとう」へ～

フードドライブって何?

何らかの理由で、食べられるのに
廃棄されそうな食料の寄付を募る活動

どんな物を?

期限が1か月程度残っていて、
常温保存が可能で未開封の食糧

フードドライブで集める食品の量については問いません。
たったひとつの缶詰でも、空腹を満たす以上の希望が詰まっています。

集める食品の条件

- 包装や外装が破損していないもの
- 生鮮食品以外のもの
- 瓶詰め食品でないもの
- 未開封のもの
- 賞味期限が明記されており、またそれが1か月以上先のもの
- 包装や外装を他のものに押し替えていないもの(お米は除く)

特に喜ばれる食品

- お米(白米)・パスタ
- 食用油、醤油、味噌、砂糖などの調味料
- インスタント、レトルト食品
- 肉、魚、野菜、くだもの缶詰
- コーヒー、お茶などの嗜好品



申込および問い合わせ先

光文堂コミュニケーションズ株式会社 企画開発部 担当: 屋良/白石

TEL: 098-889-1131 FAX: 098-835-6111 E-mail: okinawa-syokuzainomise@kobundo.net

主催: 沖縄県農林水産部 流通加工推進課 共催: 沖縄県地産地消推進県民会議